

勉強するのは何のため？ 働くってどういうこと？

みなさんが生きる

21世紀は、グローバル化が進み チャレンジとチャンスに 満ちた世界です

学校と
経営者の交流活動
推進委員会 主催

3月24日開催

学校と経営者の交流活動推進委員会(杉江和男委員長)は、第6回教育フォーラムを日本工業倶楽部で開催した。当日は中学生、教員、保護者、教育関係者など約160名が参加した。フォーラムでの基調講演、グループ・ディスカッションの様子、参加者の感想の一部を紹介する。

第1部 基調講演 講師：長谷川 閑史 代表幹事 武田薬品工業 取締役社長

これからの21世紀の姿を 想像しよう

皆さんは21世紀を生きる人たちです。中には22世紀まで生きる人もいでしょう。世界の人口は昨年70億人を超え、2050年には93億人になると予想されています。1950年には25億人だったので、この100年は人類史上最も急速に人口が増えることになります。

地球はどれだけの人口を支えることができるのでしょうか。例えば電力を得

るためには原子力や水力、あるいは太陽光や風力もありますが、大部分は化石燃料による火力発電です。この先も化石燃料で人類が必要とする電力を支えることができるでしょうか。このままでは、人類全体が大きな壁にぶつかることになります。

一方で、世界の人口は100億がピークで、いずれ減少していくともわれています。この人口の増減を最も顕著に経験しているのが日本です。日本の人口は2005年にピークに達しました。

労働人口はそれより早く1995年がピークで、その後は減り続けています。日本は世界で最も早く少子・高齢化が進んでいる国で、労働人口とそれ以外との比率は2050年にほぼ1対1になるといわれています。

すると、医療や介護、年金といった社会保障が問題となります。今までは働いている人が払っている保険料と会社が払う保険料と国の税金をベースにして社会保障費を捻出してきたのですが、今後、現役世代と高齢世代の比率

プログラム

■第1部 基調講演

みなさんが生きる21世紀って
どんな世界？

～グローバル化の進展に伴う
チャレンジとチャンスに満ちた世界～

講師：長谷川 閑史 代表幹事
(武田薬品工業 取締役社長)

■第2部 グループ・ディスカッション

●生徒グループ

テーマ：「勉強するのは何のため？
働くってどういうこと？」

●教員／保護者グループ

テーマ：「これからの社会で求められる力
と教育のあり方」

参加講師

(役職は開催当時)

【生徒グループ・ディスカッション担当】

- ◎杉江 和男 (D I C 取締役社長執行役員)
- 小林 恵智 (中日科学技術発展中心 理事長)
- 出口 恭子 (日本ストライカーホールディング 取締役社長)
- 廣瀬 駒雄 (オーエム通商アクト 取締役社長)
- 遠藤 勝裕 (日本証券代行 顧問)
- 大塚 良彦 (大塚産業クリエイツ 取締役社長)
- 吉村 幸雄 (シティグループ・ジャパン・ホールディングス 執行役員 ガバメント・アフェアーズ担当)

【教員グループ・ディスカッション担当】

- 日高 信彦 (ガートナー ジャパン 取締役社長)
- 四方 ゆかり (グラクソ・スミスクライン 取締役)

【保護者グループ・ディスカッション担当】

- 岩下 正 (パルコ 社外取締役)

※◎は学校と経営者の交流活動推進委員会 委員長、○は副委員長

が近づくと、その仕組みを変えざるを得ません。

皆さんに期待されている力とは

世界の経済の動きを見ると、20世紀は欧・米・日のいわゆる先進国が圧倒的な富を築いてきましたが、21世紀になって大きく変わり、新興国BRICsが経済成長の6割以上を創出しています。経済とは循環的なもので、いつまでも一つの国が繁栄することは難しいのです。GDPは経済を測る指標の一つですが、20世紀の経済成長の担い手だった欧・米・日のGDPの伸び率が低下し、中国やインドなどその他の地域が圧倒的に大きな伸びを示しています。

こうした状況の中、世界はいろいろな問題を抱えています。日本は昨年の大震災に限らず地震が多発する環太平洋火山帯にありますが、他にも世界中で自然災害が多発しています。また人

口が増えると、地球温暖化と乾燥化が進み、水資源が問題になります。また豊かな国が資源を独占したり、途上国の人が満足に収入を得られなかったり、お互いが殺し合ったり、テロが起きたりします。

これまで人類はさまざまな困難に直面し、知恵と想像力で対応し、備え、解決してきたと思います。自分たちさえ良ければいいという気持ちをできるだけなくし、環境を破壊しない新しい技術で、限られた資源を分かち合って平和な世界を作っていく能力も人類にはあると思います。

世界のいろいろな問題を、日本人の能力や技術で解決することが私たちの使命だと考えています。それを実現する担い手はあなたたちや、あるいは次の世代です。皆さんに大いに期待されていることなのです。

努力が9割、運は1割

時々、どうしたら社長になれるのかと聞かれます。方法はないというのが結論ですが、一つ言えることは、何でもあれ一流と認めてもらえるようになるための方法は、9割が努力することで、運が1割だと考えています。その上の「超」一流を目指すなら努力が7、運が2、才能が1必要でしょう。

生化学者ルイ・パスツールは“Chance favors the prepared mind.”「チャンスとは準備をした人にほほ笑むものだ」と言っています。人生にはいろいろなタイミングでチャンスが訪れます。チャンスは人によって種類もいろいろで、いつやって来るか分かりません。それをつかむためには常に努力を続けること、そして目標を達成したら、さらに次の目標を設定する。人生とはその繰り返しだと思うのです。

生徒との質疑応答

Qこれから人口が増えていくと食糧や水資源が不足し、私たちの生活が危うくなるのではないですか。

A個人でも組織でも、追い詰められると危機意識が高まって、さまざまな解決策を見いだすのが人類の強みです。例えば野菜工場の技術があります。おそらく将来は米やイモ類のような主食を栽培する技術が生まれるでしょう。魚の完全養殖も海水の淡水化技術も日本がトップです。また日本は海水の淡水化に必要な浸透膜の技術を持っています。それらを低コストで提供できるようになれば、世界の問題に大きく貢献することができるでしょう。

Q20歳までにやっておくべきことは何ですか。

A人生は計画通りには行かないものですが、私の経験から言うと、しっかり遊んでしっかり勉強すること。学校の勉強だけでなく社会のことも勉強して

ください。自分が興味あることも、奉仕活動も、本を読むのもクラブ活動も勉強です。それらは肉体と精神がバランスよく発達するトレーニングになります。やりたいことを精いっぱいやってください。また、人間にとってはできるだけ自然の中で過ごすことも大事なことです。

Q音楽の授業が嫌い。ぼくはラグビーだけやっていたいのですが。

Aもしラグビーのトップリーグの名プレイヤーになれる、あるいはワールドカップの選手になれる自信があれば、すべてをかけるのも選択肢でしょう。でも一人の人間として、全人格を考えたとき、クリアしなければいけない最低限のハードルはたくさんあります。皆さんは、

いずれ結婚し、親になるという可能性もありますが、そのとき、子どもに対してスポーツだけではなく、人として良き見本になれた方が良いでしょう。それに最低限のハードルを越えるための我慢ができなければ、スポーツでも大成しないでしょう。

皆さんには無限の可能性あります。自分自身の可能性に限界を設けるのは自分自身の心です。だから、自分に無限の可能性を知って、しっかり精進してください。





第2部 グループ・ディスカッション

勉強するのは何のため？ 働くってどういうこと？

第2部では生徒・教員・保護者の各グループに分かれ、ディスカッションを行った。グループごとに講師が問題を提起、それに対してお互いに疑問点や意見を述べ合った。参加者にとって、それぞれの立場での悩みや問題意識を共有する、有意義な機会となった。

学ぶことは自分自身を 高めること

生徒グループは7グループに分かれ「勉強するのは何のため？働くってどういうこと？」を、教員の2グループと保護者1グループは「これからの社会で求められる力と教育のあり方」をそれぞれテーマとして、ディスカッションを行った。

生徒グループの講師を務めた杉江和男委員長は、まず仕事への理解を深めるために、商品が完成するまでの工程を示した。そして、「働くこと」とは、多くの仕事の組み合わせで成り立つ社会の一翼を担い貢献することとし、その結果、社会、家族、自分を幸せにすると説いた。また、「学ぶこと」とは、自分の得意分野を作り出し、社会の変化に対応できる力を付けることであり、自分自身を高め、行動範囲を広くして人生を楽しくさせるものであるとして、その大切さを語った。

同じく生徒グループの講師を務めた吉村幸雄副委員長は、「人に喜ばれる

ことをするのが仕事の意味」と語り、規則正しい生活など将来に向けて基本を大事にすることや、文系・理系の壁を取り払った広い視野が必要なこと、本物を知るために積極的に行動し感動することの大切さを語りかけた。生徒たちからは興味を持っていることや将来の夢などが語られた。

学校、家庭それぞれの 教育の課題を議論

教員グループでは、教育現場でのさまざまな取り組みと経験が話し合われた。講師を務めた日高信彦副委員長は「常に自分の考えを持とうと努力する『人間力』が必要」と指摘した。教育現場からは『人間力』を育成することのできる教員がいないなど学校側の抱える問題点が挙げられた。また、日本の将来を支える子どもという観点で、柔軟で創造性を育む教育の重要性や方法について議論された。

同じく教員グループの講師を務めた四方ゆかり副委員長は、企業が求める人材像は、異質なものを積極的に受け入れ吸収できる柔軟性と自信を持った人材だが、現実とはギャップがあると指摘し、「みんなと同じ」「違うことを怖がる」状況に警鐘を鳴らした。参加した教員からは、企業が課題とす



るグローバル化について、学校側が周知していないなどの問題点が挙げられた。また、中等教育の現場でこうした課題を解決していくために、定年退職者を学校現場で活かすなど学校・企業・地域が一体となって取り組む必要があるといった提案も出された。

保護者グループの講師を務めた岩下正副委員長は、「教育では『不変的なもの』も大切だ」と語り、「皆が皆、グローバル化に適応しなければならないのか」「学習格差が広がる中、学校教育にどこまで期待するのか」といった問題提起をしたほか、「これからは多様性・不確実性が増した社会で生きることを自覚させることが必要だ」と指摘した。参加した保護者からは、「脱ゆとりなど教育方針の変化が激しく、現場の先生がついていけないし、親もどう対応すればよいのか迷ってしまう」など、子どもと学校の姿から実感する課題や悩みが出されたほか、保護者として教育フォーラムなどで「教員や親以外の大人と出会い、会話する」機会を増やすことの重要性が語られた。



参加者の感想



第1部 基調講演—生徒の感想

■「無限大の力があるのだから、それを信じて努力をし続けてください」という言葉がとても印象的でした。私には将来の夢があります。一度、あきらめようとしたときもありましたが、今回のお話を聞いて、これから頑張っていきたいと思いました。もっと努力を積み重ねて夢を実現したいです。(中1女子)

■これから地球の人口がどんどん増えていく中で、水資源の不足、食糧不足などのさまざまな社会問題が出てくることを知った。かつての私たちの先輩がしてきたように、困っている国のために自分たちができることを精いっぱい



いして、自分たちがこれからの未来を任されていることを意識して生きていきたいと思った。そのためには、普段から、奉仕の気持ちを持って、社会に貢献していけたらと思う。(中2男子)

■現実を知っている人というのは、やらなければいけないこと、やるべきことがよく分かっていると思う。学校の教師が話す理想論ではなく、現実的な話が聞けた。人生を、そして社会を生き抜くために必要なことを知っていて、物事の本質を教えてもらった。(中3男子)

■真のグローバル化をどのように考えていけばよいのか、考えさせられた。日本の人口が減っていく中、GDPを高くするためには、一人ひとりの力を大きくする必要があるのだ、それに貢献したいと思った。(中3男子)

■世界全体の問題を解決するには、自分たちだけが良い思いをしていてはいけなくて心に留めて、来自分分の無限大の力を発揮できるよう頑張ろうと思

いました。日本の少子・高齢化で、老人を大切にするのも良いけれど、若者の負担についても考えなければいけません。(中2女子)

■「若い世代がこれからの日本をつくる」、そんな長谷川さんの言葉がとても心に残りました。私にもまだまだ可能性がたくさんあるということが分かったので、その可能性を広げる準備をしたいと思います。(中3女子)

■私は、これといった目標がないまま生きてきましたが、それはもったいないことだと反省しました。また、社会に出て一流になるには、才能が大きな割合を占めているのだと勘違いしていましたが、努力というものが大切なのだと気付きました。(中3女子)

■努力を続けていくこと自体が一種の才能であることを確認させられた。同時に、自分に勝つということは難しいことなのだと感じた。自分に勝つよう折れない心を持ち続けたいと思った。(中3男子)

第2部 グループ・ディスカッション

【生徒グループ】

■会社の中や社会の中で生きていくには、人格、人間性が大切だということが分かった。また、将来の夢は変わって当たり前ということに気付かされた。(中3女子)

■さまざまな人の夢を聞き、自分の夢を再確認するとともに、夢を持った人が集まって社会が成り立っていると思った。(中3男子)

■働くことでお金を稼ぐことはただの手段であって、心の喜び、安らぎを得られるということを知りました。働くことについて深く考えるきっかけになり、また、将来働くことが楽しみになりました。(中2女子)

■毎日少しずつ努力することが大切ということや、他人とかかわっていくことが、将来にも役立つという話が役に

立ちました。(中2女子)

■実際に働いている方から話を聞くのは、今後の役に立ちます。学校の先生に「基本をしっかりしろ」と言われてもあまり分からなかったけれど、今日の話聞き、基本の大切さが分かった。他校との交流の機会になって良かった。(中1女子)

【教員グループ】

■日本の市場規模の縮小、グローバル化を前提に、これからの時代を生き抜く企業の視点で、人間教育のあり方を議論できた点は有意義でした。

■国際化とはどういうことか学ぶことができました。英語がなぜ必要であるか、楽器と同じであるというのは納得することができました。「なんとなくこわがっている日本人」。一歩踏み出

せずにいる自分が見えてきました。通り一遍の答えでない方の話を聞いたのが大変勉強になりました。

【保護者グループ】

■究極は「人となり」で人格教育が一番大切であるという点と、自活能力を身に付けさせるという点が役に立ちました。また、地域、環境の区別なく、同年代の子を持つ親の悩みは同じだと思いました。



講師の感想

〈役職は開催(3月24日)当時〉

生徒グループ

杉江 和男

D I C 取締役社長執行役員
学校と経営者の交流活動推進委員会委員長



生徒が他校の生徒と議論し、自分の考えをきちんと述べる機会を持つことは、とても貴重な経験であると思う。生徒とのやりとりの中で“目標に向かって努力すること”は“自分と社会の幸せのため”と理解してほしいと思った。

生徒グループ

出口 恭子

日本ストライカーホールディング
取締役社長



8割の時間をケース・メソッド式で行った。人の意見を聴く、自分の意見を持つ、自分の意見をはっきりと人前で言うことについて、学べたと思う。講師同士のベスト・プラクティス、失敗例などを共有し、次の機会に活かしたい。

生徒グループ

遠藤 勝裕

日本証券代行
顧問



働くことの意味、働く上で大切なことは何か、中学生はなぜ勉強するのか、といったことを問題提起した。フリーな発言を遠慮することなく、積極的に発言していた。今後は、引っ込み思案な生徒をどう参加させるかが課題。

生徒グループ

吉村 幸雄

シティグループ・ジャパン・ホールディングス
執行役員 ガバメント・アフェアーズ担当



勉強は将来必ず役に立つ、仕事はお金のためだけにやるのではない、そして生きがい、やりがいを探すことが大事だと伝えた。生徒、一人ひとりの個性が感じられる発言が多く、参加者全員が自分の考えを述べる事ができた。

教員グループ

四方 ゆかり

グラクソ・スミスクライン
取締役



社会に出た学生が、どんなことで苦労しているのか、それを克服できる人材に育てるために教師としてできる教育とは何かを問題提起した。出席した教員の方は、皆前向きで、議論も活発に行われた。良い学び合いの場になったのではと思う。

生徒グループ

小林 恵智

中日科学技術発展中心
理事長



生徒一人ひとりの個性の違い、考え方の違いがみんなで共有できた。もっとディスカッションの時間がほしかった。議論の場に大人も参加させても良いのではないかな。経済や勉強について自分なりの意見を持つ力こそ、強く生きる源泉になる。

生徒グループ

廣瀬 駒雄

オーエム通商アクト
取締役社長



自分の現在、過去、未来について、事前に考えて来るようにシートを渡しておいたので、全体的にまとまった議論ができた。生徒たちは、趣味や考え方などお互いのことに興味があり、積極的に情報交換をしていた。充実した時間が過ごせた。

生徒グループ

大塚 良彦

大塚産業クリエイツ
取締役社長



成功への5要素として、「プラス発想」「素直で積極的な行動」「一生勉強」「本質的、長期的、総合的な視点」「すべて己の責任」を挙げた。生徒からの事前質問に対して、一人ずつ資料を作成しておいたことに、何かを感じ取ってくれたようだ。

教員グループ(校長・副校長)

日高 信彦

ガートナー ジャパン
取締役社長



今の校長先生が抱えている問題点がよく理解できた。また、それを解決するさまざまなアイデアが聞けた。私にとっても良いディスカッションであり、貴重な経験ができた。ありがとうございました。

保護者グループ

岩下 正

パルコ
社外取締役



異なる地域環境、教育環境、学校、家庭の保護者の方々が意見を交わすことにより、お互いに新たな視点、考え方に目を開くことができたと思う。参加者が全員積極的に議論参加し、自身の体験を踏まえ地に足のついた教育論を展開していた。